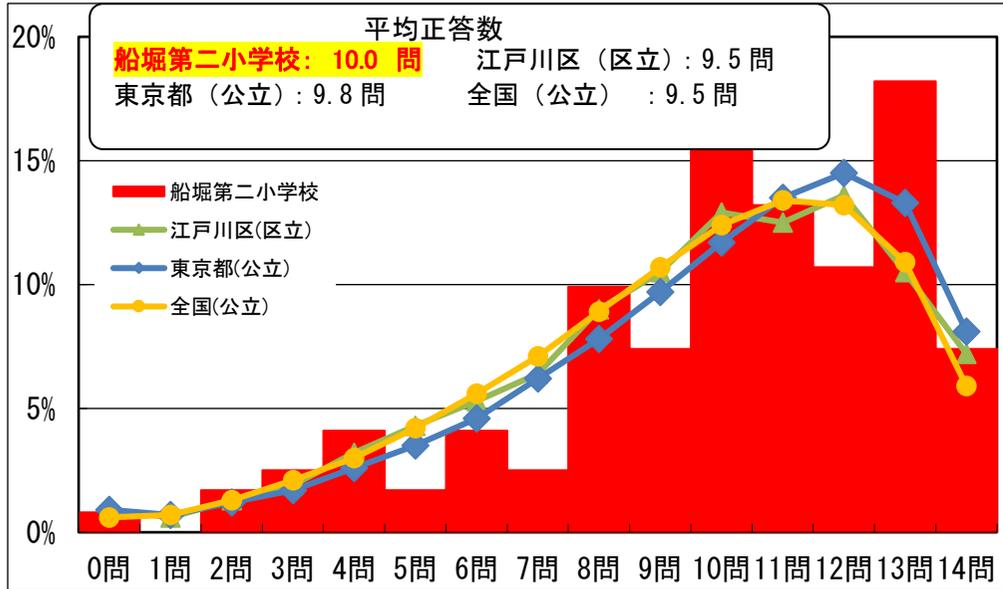


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 船堀第二小学校

正答数分布



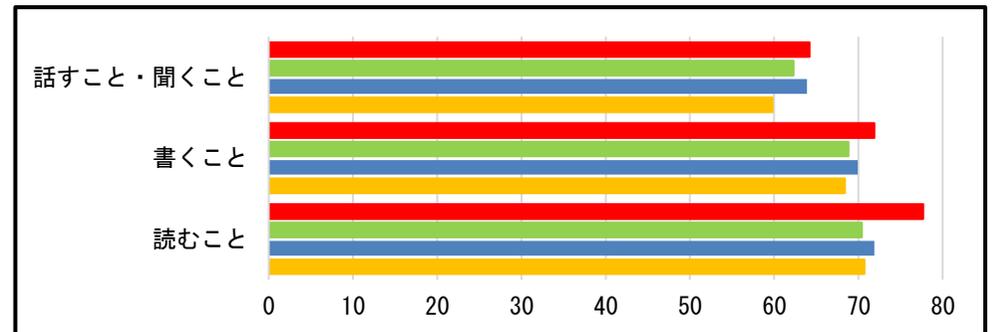
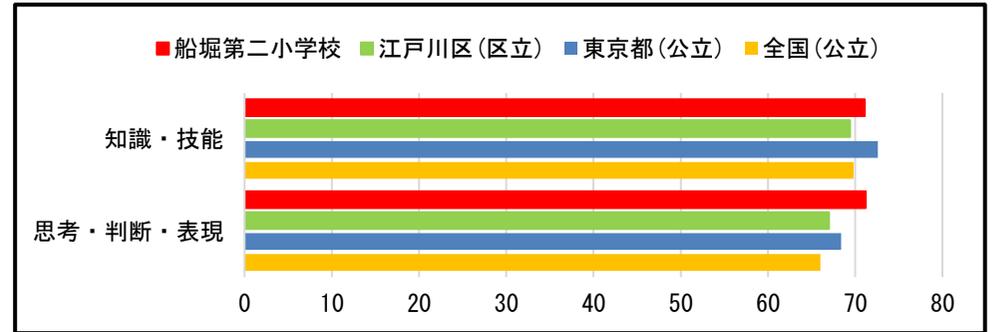
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
船堀第二小学校	36.3	28.9	17.3	17.4
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

船堀第二小学校	71%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	1ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

物語文では、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題が出題されている。これに対し、本校の正答率は82.6%となっており、都正答率71.0%より11.6%上回っている。つまり、話し合いの様子を受けて、物語を読んで心に残ったところとその理由を物語から言葉や文を取り上げて、まとめることができている。

1. (1)の誤答は、言葉の順序に気をつけて短い文に区切った話し方に変えたことを捉えることができていないパターンが多かった。2. アの誤答は、「競技」の「技」は書けたが、「競」が書けないパターンが多かった。話し言葉は発せられた途端に消えていくので、複雑な構文よりも端的に言い表す方が相手に伝わりやすいことを捉えきれていない。したがって、話し言葉と書き言葉の特徴に応じて使い分ける力をつける必要がある。また、既習漢字を文や文章中で使おうとする習慣を身につけるようにする必要がある。

これらの分析から、本校では、教科を問わず話し合い活動等で、相手が理解しやすいように伝えたいことを短く分かりやすく話すことを指導していく。また、文章を書く際は必ず既習漢字を書くことを習慣づけるように指導していくことで、相手に伝わりやすい話し方や正しく漢字を書く力を養っていく。